

第三十九回 テアトル・ノウ京都公演

半部 味方玄

立花供養

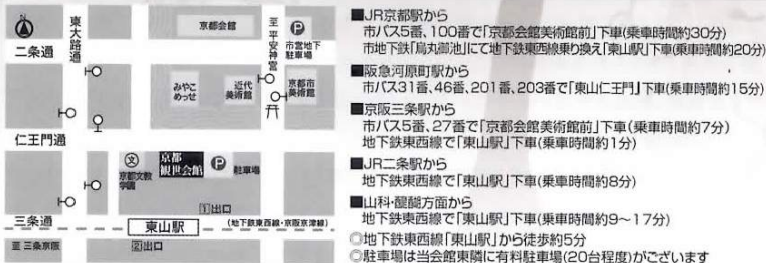
令和元年十月六日(日)午後二時始

於 京都観世会館

8月5日(月)10:00よりチケット発売 「みかたくらぶ」先行発売あり

京都観世会館案内図

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 Tel.075-771-6114



1階は全て指定席。2階は正面1列目のみ指定席。
 正面席…8,000円 脇正面席・中正面席…6,000円
 2階正面席一列目…5,000円
 2階自由席…4,000円
 学生席…各2,000円引き

入場料

テアトル・ノウ事務局 TEL&FAX 075-213-1774
 ホームページからもお申込みいただけます
<https://theatrenoh.com/>
 京都観世会館 TEL 075-771-6114

お申込み

令和元年 十月六日(日)午後二時始(午後一時開場)

於 京都観世会館

京都府次世代等古典芸能普及促進公演

第三十九回 テアトル・ノウ京都公演

仕舞

砧

片山九郎右衛門

地謡

大江 広祐
分林 道治
古橋 正邦
橋本 忠樹

狂言

寝音曲

太郎冠者 小笠原 匡

主 山本豪一

後見 泉 慎也

休憩

立花

華道遠州宗家
芦田一寿

午後三時過ぎ

能

里の女
夕顔の女
味方 玄

半 薨

雲林院の僧
江崎 欽次朗

大鼓 白坂 信行
小鼓 吉阪 一郎

笛 竹市 学

間 所の者 小笠原 匡

後見 青木 道喜
味方 團

田茂井 廣道
梅田 嘉宏
橋本 忠樹
武田 邦弘
片山 伸吾
大江 信行
分林 道治
片山九郎右衛門
古橋 正邦

終了予定 午後四時四十分頃



ご挨拶

テアトル・ノウ京都公演は『半薨』を「立花供養」にて上演させていただきます。

『半薨』は、都北山の雲林院の僧が、夏安吾(ひと夏九十日かけて行う修行)を終える頃に、日々供えた花を集めて供養をするところから始まります。

女が現れ、その花に夕顔の花を指し添え、その花の主すなわち自分は五条あたりの者とほめかして花のかげにフッと消えてしまいます。

後場は五条あたりを訪れた僧が、源氏物語の夕顔の巻の幻を見るのです。

『半薨』のシテ・夕顔の女は、光源氏と訪れた某の院で物怪によって消えてしまう夕顔と、儚く咲く夕顔の花の精とがオーバーラップさせて描かれています。

「立花供養」とは冒頭、ワキの名乗りの後、実際の立花が舞台上に据えられる演出です。

今回は舞台上で遠州宗家芦田一寿氏によって花供養をしていただき、その立花を通して物語が展開する試みです。また能が終われば立花のみがそこに残り、劇中に僧が見た夢中の幻を皆さまに感じていただきたく存じます。

テアトル・ノウ主宰 味方 玄

味方玄氏との舞台は久しぶりである。かつて紅葉や杜若、山桜など、モチーフを生の花で飾り、能の空間演出のお手伝いをした。彼は「能には植物がよく登場する」と言っていた。それは植物や花が「命の儚さ」を意識させるものであり、「命の象徴」だからかもしれない。言うまでもなく、「いけばな」の起源は供花や献花にみられるようなofferingであり、それがいつしか「たてばな」として進化し、形式化していった。私どもの流儀花である「生花」は、さらに遊芸の度合いを深め、華道として江戸期に確立したのだが、実は花の色や造形的な美しさそのものよりもっと大切なのは、その花を「生けた人の心情」だといえる。つまり、花を生けるときにはどんな場合でも、環境や状況に関わらず「祈る」ような気持ちで生け、誰かに「捧げる」ような想いをこめて生ける。

能も華道も、先人たちが幾度となくいくつかのテーマに基づいて繰り返し演じ、生けられてきた世界。切なさや思い通りにいかない命の儚さを「美しさ」や「気品」に昇華させて見せる点では同じかもしれない。

ただの偶然ではなく、味方氏と現世において出逢い、また今回の「半薨」にて舞台で花の供養をさせていただけることに、先人たちの導きと、彼らの黄泉の国からのことば、「見せていただきますよ」というメッセージが聞こえてくる気がする。

芦田一寿



味方 玄

観世流能役者

1966年京都にて能楽師・味方健の長男として生まれる。幼少より父に手ほどきを受け、1986年、片山幽雪(人間国宝)に内弟子入門。1991年独立。2002年KBS京都テレビにて能楽入門番組「能三昧」(全28回)を監修、出演する。2003年新作能「待月」の脚本を手がけシテを演じる。2006年淡交社より「能へのいざない」を出版。2001年「京都市芸術新人賞」受賞。2004年「京都府文化賞奨励賞」受賞。2011年、重要無形文化財(総合)認定。



芦田 一寿

華道遠州宗家 貞陽齋

本名芦田 乾 1967年京都生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン科卒業。シカゴ、NYなどで勉強。正風遠州流宗家後継者として期待されつつ1992年、全国の支部幹部らの支援を受け「華道遠州」として新たに宗家として門業とともに流をおこす。江戸中期から明治期に一斉風靡した「曲生け」とよばれる古典生花の理論と技術を忠実に継承。京都白沙村荘での個展や流展、国連チャリティーパーティー協賛出瓶やトム・クルーズ氏を迎えた二条城での映画プレミア会場花装飾、NHKコンサートマスター、箏奏者、LanvinやPanasonicなどとのイベント、テレビや雑誌への出演など幅広く活躍。全国の支部で講演、講義や実技教授をする一方、京都市内で直接指導の教室を開催。現在、同志社大学国際教養教育院委託講師として海外留学生、日本人学部生らに華道を通じて実技・文化も伝える。